

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ協議会
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

2022年を迎えて



徳島市長 内藤佐和子

明けましておめでとうございます。
新しい年を穏やかに迎え
のことと謹んでお慶び申しあ
げます。

皆さま方におかれましては、
日頃よりコミュニティ活動に
深いご理解と多大なるご尽力
をいただき、心よりお礼を申
しあげます。
また、一昨年に引き続き、
新型コロナウイルス感染症の
影響による施設の利用制限等
への対応にご協力いただき、

深く感謝を申しあげます。

さて、本市を取り巻く環境
は、新型コロナウイルスの感
染拡大防止をはじめ、急速に
進行する人口減少や少子高齢
化への対応、大規模な自然災
害への備えなどが強く求めら
れており、地域活性化の源で
あるコミュニティ活動の重要
性が一層増しております。

こうした中、皆さまの日々
の積極的かつ献身的な活動は、
人と人とのつながりや地域の
絆を深め、誰もが安心して暮
らし続けることのできる共生
社会づくりの実現に不可欠で
あり、誠に心強い限りでござ
います。

本市といたしましても、目
指す将来像「わくわく実感！

水都とくしま」の実現に向け、
将来にわたって持続可能な魅
力あるまちづくりに全力で取
り組み、市民の皆さまが安
全・安心に生活していただけ
るよう、なお一層の努力を重
ねてまいりたいと存じますの
で、今後とも、皆さま方の一

新年の挨拶

徳島市コミュニティ連絡協議会



会長 島田 和男

層のご支援とご協力を賜りま
すようお願い申し上げます。
結びに、この一年が皆さま
方にとって輝かしい幸せな年
でありますよう心からお祈り
申しあげまして、新年のご挨拶
とさせていただきます。

新年あけましておめでとう
ございます。皆さまにとりま
しては、健やかな新年をお迎
えのことと推察いたします。

昨年を振り返ってみますと、
我々が運営するコミュニティ
協議会に大きな影響があった
事柄が二点ほどありました。

一つ目はなんとと言っても、
一昨年より継続して発生して
いるコロナ感染症でありま

しょう。令和三年四月から五
月には、感染拡大により市内
のコミュニティセンターが、
一斉に休館となりました。六
月に入り感染症が減少し、こ
れで正常な運営ができる時期
待していたところ、東京都を
含む関東一円で、再び急拡大
しオリンピックやパラリン
ピックは無観客となりました。

八月に入り地方にもコロナ感
染症が拡大し、十九日から再
び休館となり九月末まで延長
されました。この状況が続け
ばコミュニティセンターの運
営が非常に厳しくなり大変危
惧しているところであります。

二つ目は、徳島市の行政改
革により公民館がコミュニ
ティセンターに統合する話が
進行しています。この件は今
まで何度も持ち上がったは消
えていった案件でありました。
これまではいろいろな意見が
ありまとめきれなかったので
ありますが、今回は社会教育
課が、本腰を入れ強力で推進
し令和四年度から順次、でき
る地区からすすめていくとの
ことであります。

我々の徳島市コミュニティ
連絡協議会においては、統合
の話が出かかった時より先進
市の現状を把握するため、毎
年研修旅行を兼ね視察してき
ています。その中には、あら
ゆる団体の補助金を一括して、
地区に分配し地区内で補助金
を各団体に分けているところ
もありました。

これからは先進市に負けな
いよう内容なども充実させ、
活性化を進め自主運営ができ
るよう、お互いに情報交換を
行い助け合いながら頑張りま
しょう。

最後になりましたが会員の
皆さまにとりましてより良い
年になるようご祈念申しあげ
新年の挨拶いたします。

地域貢献高齢者顕彰

例年、十月一日に開催される置市記念式典において徳島地域貢献高齢者顕彰制度に基づき、日ごろから地域のコミュニティ活動に貢献されている方々に対し、徳島市長より感謝状の贈呈が行われています。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、残念ながら今年度の式典は中止となりました。顕彰されたのは次の方々です。

- 内町まちづくり協議会 椎野 博文
- 新町コミュニティ協議会 大森 茂
- 西富田コミュニティ協議会 大坂シゲコ
- 東富田コミュニティ協議会 福田佳代子

昭和コミュニティ協議会

今井 康之

渭北街づくり協議会

濱田 孝子

佐古コミュニティ協議会

三木 隆清

沖洲コミュニティ協議会

南 英生

加茂コミュニティ協議会

吉田 文明

八万町各種団体連絡協議会

山口 敏夫

八万中央コミュニティ推進協議会

藤田 恒子

八万コミュニティ推進協議会

浅野 保子

多家良中央コミュニティ協議会

芝原 孝昌

丈六コミュニティ協議会

小椋 茂

不動コミュニティ協議会

福永 博士

上八万まちづくり協議会

中林 正人

一宮下町づくり推進協議会

木村 鈴子

川内まちづくり協議会

多田 洋子

南井上コミュニティ協議会

鈴江 三子

北井上地区コミュニティ協議会

美馬 正幸

(以上行政区順・敬称略)



本年もよろしく

お願いいたします

沖洲コミュニティ協議会

会長 三栖谷高照

津田コミュニティ協議会

会長 島田 和男

加茂名まちづくり協議会

会長 宮本 昌美

加茂コミュニティ協議会

会長 宮崎 忠司

八万町各種団体連絡協議会

会長 矢田 嘉昭

八万中央コミュニティ推進協議会

会長 福永佐知子

八万コミュニティ推進協議会

会長 福山 啓子

勝占地区コミュニティ連合会

会長 田中 稔

勝占中部コミュニティ協議会

会長 竹内 鋭治

勝占東部コミュニティ協議会

会長 谷口 榮一

多家良地区連合協議会

会長 福井 敏夫

多家良中央コミュニティ協議会

会長 高山 宏行

丈六コミュニティ協議会

会長 梅本 辰雄

不動コミュニティ協議会

会長 大川 良文

入田町まちづくり協議会

会長 森 政雄

上八万コミュニティ連合協議会

会長 川人 泰博

上八万まちづくり協議会

会長 阿部 増江

一宮下町づくり推進協議会

会長 祖川 信明

川内まちづくり協議会

会長 植田 和則

川内南コミュニティ協議会

会長 坂東 敏夫

応神町コミュニティ協議会

会長 濱井 利教

国府コミュニティ協議会

会長 藤村 俊治

新町コミュニティ協議会

会長 前川 佳弘

西富田コミュニティ協議会

会長 岩佐 重明

東富田コミュニティ協議会

会長 松ノ内 清

昭和コミュニティ協議会

会長 松岡 勤

渭東コミュニティ協議会

会長 中嶋 修三

住吉・城東地区町づくり協議会

会長 浜田 耕市

渭北街づくり協議会

会長 近藤 辰夫

佐古コミュニティ協議会

会長 吉田 紘

南井上コミュニティ協議会

会長 松島 孝昌

北井上地区コミュニティ協議会

会長 伊川 幸治

内町まちづくり協議会

会長 宮澤 武志

(順不同)

地域活動とボランティアの懸け橋に

佐古ボランティアセンター運営協議会

会長 吉田 紘

佐古ボランティアセンター運営協議会（以下BCK）は佐古住民と地元企業（従業員を含む）で構成し、令和元年九月に発足しました。活動目的は、地域社会でボランティアを必要とする側とボランティアでできる側を仲介する中間支援活動です。

地域団体の活動に、若い力のボランティアを必要とする時にはBCKにボランティア要望書で申込みをします。BCKが、内容と安全を確認しボランティア募集を発信します。

また、BCKは「とくしま県民活動プラザ」に団体登録をしましたので、ボランティア活動に基づきボランティア活動証明書を発行できるようになり、すでに実際のボランティア活動に対し発行しています。

令和三年三月二十九日（月）



清掃活動の様子

に佐古コミュニティ協議会主催の佐古小学校周辺部清掃活動では、地域の方には町内回覧で春休みの小学校での作業ということと佐古町内の児童・生徒等に親子ボランティアを募集したところ、小学生・中学生・高校生の二十七人に参加いただくことができました。この活動は、佐古小学校（愛日校）入学式の美化活動の一環となりました。

令和三年五月二十三日（日）に万年山愛護連絡会より「徳島藩主蜂須賀家墓所（万年山墓所）清掃活動ボランティア」募集の申し込みがあり、当日、小・中・高生と地元住民を含め約百四十人に参加した。



参加したボランティアのみなさま

だき、ボランティア証明書を八十八枚発行しました。参加された小・中・高生は、コロナ感染を避けて清掃区域を分割し、各区域に地域の住民が安全を確認し指導しながら二時間作業を行いました。

その他、サマー防災キャンプのスタッフ・諏訪神社注連縄奉仕活動・避難所感染対策などのボランティア活動に参加していただきました。ボランティア活動の普及を図り、次代を担う人材の育成と若者の社会参加の促進に資することを目的に、BCKを運営していきたいと思えます。

不動地区に架かる橋のお話

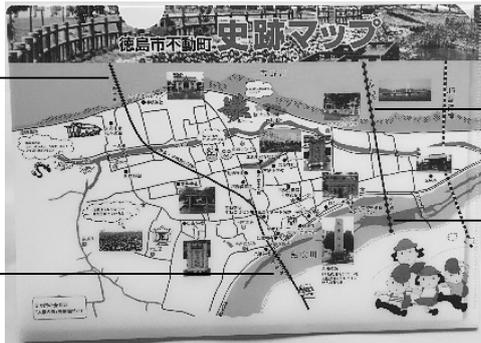
不動コミュニティ協議会

太古の昔から阿讃・剣山系からとうとうと流れる吉野川は流域の人たちからは「大川」と呼ばれてきました。また、

神山山系から流れる鮎喰川を「前川」と親しまれてきました。この両河川にはさまれた不動地区は、水と緑に恵まれた地域ですが、豪雨に見舞われると洪水被害で住民は苦しめられてきました。現在は治水工事も完成しブロッコリーの一大産地として有名になっています。

今から六十年前を想像することは難しいですが、この徳島市の北部・北西部から市内への通勤・買い物などで交通量は比較にならないほど増大しています。私たちは、日常生活の中で橋を渡らなければ生活ができません。そこで、吉野川・鮎喰川に架かる四つ

の橋のお話をさせていただきます。



2 名田橋

4 四国三郎橋

3 弁天橋

1 不動橋



不動橋

一「不動橋」約三〇〇m
鮎喰川に架かる鉄筋コンクリート橋です。北島田町と結ばれ県道一号线が通っています。明治四年には「賃取橋」として架けられていました。当時の賃料は五文であったそうです。

昭和三十一年に完成、三十



名田橋

二「名田橋」約八〇〇m
県道一号线の吉野川に架かる我が国最大のプレストレスコンクリート橋で、昭和三十八年に完成しました。明治六年村営で「名田橋」を架けましたが、たびたびの洪水で橋は流されました。

現在の橋が完成するまでの

三年に開通式が行われ、「下鮎喰橋」と云われていましたが、有名な「新居のお不動さん」の名から「不動橋」と名付けられました。



新 弁天橋



旧 弁天橋 (潜水橋)

間、「名田の渡し」としても有名で、県営の渡船として運

行されていました。南から四番目から六番目の橋脚付近に藍商・銀行家として有名であった久次米兵次郎氏の屋敷跡があったといわれています。

三 「弁天橋」約三六二呎

鮎喰川上流付近に雨が降ると潜水橋(沈下橋)の「弁天橋」の通行ができなくなり、迂回して「不動橋」または、「上鮎喰橋」まで大回りしていました。地域住民の多年の念願が叶い平成元年に開通しました。新しい「弁天橋」の完成により、周辺の交通混雑が緩和されました。

四 「四国三郎橋」約九一〇呎

旧讃岐街道(県道徳島・引田線)の朝は通勤ラッシュで、特に「名田橋」付近ではしばしば長蛇の列となっていました。

これを緩和するため「弁天橋」に続いて吉野川に架かる二十四番目の道路橋として「四国三郎橋」が平成十年三

月に完成しました。架橋地点の左岸がボートレースのコースになっているため長支間となり、景観も考えた斜長橋として優美な姿を見せています。



四国三郎橋



多家良中央地区の 史跡めぐり

多家良中央コミュニティ協議会

昨年度から、コミュニティ活動が制限され多くの事業や行事が中止となり、現在の館内は静寂な日々が続いています。早く以前のようなコミュニティ活動が活発になることを願うばかりです。

今回は報告できる活動ができていないので、この地域の史跡紹介をさせていただきます。

江戸時代以前ですが、現在の宮井小学校にお城があったというお話です。

現在の宮井小学校敷地にあったとされる「大匠寺」の地に宮井城の土塀が残っていたといわれ、宮井城跡の土塁であるといわれています。郵便局付近には「北門」、支所付近には「かぶき門」、小学校のプール付近には「内門」、

グラウンド東側には「お針子部屋」という古くからの呼び名が伝えられているそうです。

これらの地名を踏まえると宮井城域は、現在の宮井小学校及びグラウンド、そしてその北側の数軒の集落を含むとも考えられています。また、小学校の南にある

「青蓮院」は、宮井城の西の丸であったとの伝承もあります。近隣には、中津峰如意輪寺ゆかりのある「中津峰城」、中津峰山の北麓には「八多城」の城跡があったと文献に残されています。

その他に「令和三年度伝統文化ポラ賞」の地域賞に選定された、五王神社境内の「犬飼

農村舞台」近辺には「八多の五滝」、中津峰山へ向かう道の途中にある金谷地区の「立岩神社」、「山方比古神社(現在の金山神社)」と多くの史跡があります。

多家良地区の史跡については『城跡記』『阿波志』『勝浦郡志』を参考に致しました。今回史跡を調査することによって、改めて地域の歴史に触れ合うことができ驚くことが多くあり、この苦難の時期が収束すれば、一度近辺の史跡めぐりを行いたいものです。



昭和6年当時の宮井小学校付近の眺望

上八万地区まちづくりの取り組み

上八万まちづくり協議会
会長 阿部 増江

時は流れ・・・

平成十六年台風二十三号による上八万大洪水から早十七年が過ぎました。

上八万地区は浸水地帯のため、長年の懸案事項として上八万自治会が進めておりました川北地区と明善地区にある出岩（通称）が県（旧徳島土木事務所）により、拡幅工事が完成しました。

園瀬川の西光寺から清寿園までの間の、浸水防止対策のための大きな堤防改修工事も完了致しました。次は川西地区の堤防工事がいよいよ着工されます。この工事が終わると、上八万地域全体の園瀬川の流れがよくなり、浸水の被害が少なくなります。

令和に入り急激に工事が進む中、川に生えている竹をほとんど切り起こしていくのを見てみると綺麗な川が出てきました。こんなに川は広がっ



竹を切り起こしたあとの園瀬川

たのだなとつくづく思いました。

令和に入り大きな災害も無い今、平和な上八万にうれしいことが起こっています。

現在人口は約六千六百人、世帯数は約三千世帯ですが、最近センチュリーヒルズ（中山）にどんどん住宅が建ち、若い人たちがたくさん見受けられるようになりました。

現在約五十軒の新しい素敵な住宅が建ち並んでおります。

「子どもが育ち大きくなって巣立って行く・・・ふるさと」として引き継がれて行くのだなと思えます。

上八万は、交通不便地区です。少しでも買物物が便利ないようにと一年前からコミュニティバスを走らせています。ちょうど新型コロナの感染が拡大した時と重なり、思うようにはいきませんが、町民の皆さんの希望に添えるよう改

大岡川さくらキラキラロードお花見会

「紅豊」植樹十周年記念

住吉・城東地区町づくり協議会

会長 浜田 耕市

善を重ねていきます。今、私たちは少しでもいい環境作りをし、上八万に住みたいなどと思って頂けるそんな町にして行きたいと思えます。

ふるさとの山に向いて言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな
(石川啄木)

はいえ楽しい時間を過ごすことができました。今、まさに見ごろの時期を迎えた紅豊に出会えたことは幸いでした。東日本大震災の六日前に植えた人の指ほどの太さの苗木、北海道松前生まれの十本の紅豊が十年の時を経て「桜の貴婦人」にふさわしい見事な大樹に育ったことに思いひとしおのものがあります。また植樹三年を過ぎた十一本の若木と合わせ、美しい花を愛でる会が盛大に開催されることを心より願っています。（さくら緑地を育成する会）

一昨年のお花見会は残念ながら中止となりましたが、昨年、大岡川東岸にさくら（紅

一昨年から続いている新型コロナウイルスにより、すべてのイベントを中止している中、植樹十周年を記念し、なんとかお花見会をできないかという声が高くなり、最大限の注意を払い開催したお花見会の様子を、お世話していただいた代表の方のコメントで紹介させていただきます。

令和三年四月四日（日）紅豊植樹十周年を記念したお花見会を催しました。コロナ禍



さくら緑地を育成する会のみなさま



紅豊植樹 10 周年記念お花見会

豊) 植樹十年目の春を迎えることができました。会員の皆さまのおかげで立派に育ち、大きなピンク色の花を咲かせてくれました。今では「さくらキラキラロード」ができ、毎年お花見の会で、地域の皆



住吉音頭を楽しむ会のみなさま

さまを囲んで「さくら緑地を育成する会」「住吉音頭を楽しむ会」の皆さまと一緒に音頭を踊って楽しんでます。今年の春、紅豊のピンクの花が咲いたら皆と一緒に楽しみましょう。その日を待っています。(住吉音頭を楽しむ会)

変わらぬもの、変わるもの

フレンドリーしょうわ編集委員 谷崎 範子
昭和コミュニティ協議会

昨年コロナ禍で中止となった地域の行事が多く、コミュニティセンターに集う機会が少なかったです。

感染者数がようやく落ち着いてきた敬老の日、記念品を建物の外で渡す光景は一昨年と同じでしたが、車で訪れる人が多く昨年はドライブスルーでの受け取りが可能になりました。駐車場はどう誘導すればスムーズに渡せるか? 何度も予行演習をした結果、高齢者に乗せて次々と入ってくる車を上手に誘導することができました。

昭和地区は、婦人会の会員が招待状を対象者にできるだ

今年こそは、普通に地域の人たちが、キラキラロードにさくらの花を見に来て、住吉音頭を踊り、お茶を飲み、桜餅を食べる、そういう日が来ることを心より願っております。

け手渡ししていましたが、コロナ禍でポスト投函が多くなりました。当日元気に記念品を受け取りにきた顔見知りの高齢者と会員が談笑する姿が見られました。

記念品を受け取った高齢男性が「今日はこれだけ?」と建物の方を見てつぶやきました。コロナ以前の敬老会はコミュニティセンターで大勢集まり、地域住民のコーラスや昭和小児童の歌を楽しんでいました。それなのに一昨年からは不要不急の外出を控え、密を避け我慢の日々です。特に高齢者は用心していたでしょう。地域の行事が次々中止と

なる中「敬老会」は久々のビッグイベントだったのですが、残念ながら記念品を渡すのみとなりました。

お世話をする婦人会は地域の児童や園児とも交流があり、毎年記念品の中に児童の手紙や、児童館を訪れた子どもたちの折り紙が入っています。二十年ほど前の話ですが小学生の娘が渡した手紙に返事をくれた高齢者がいて、娘共々嬉しい驚きでした。九十歳になる母も敬老会で貰った子どもの手紙と折り紙を大事に取っていました。

昭和地区の様々な活動は良き伝統を守りつつ、そこに新しい発見や挑戦が加わり、進化しています。地域の人たちにより喜ばれるよう、これからも力を合わせ笑顔で頑張りたいと思います。



ドライブスルーの案内表示



児童からのお手紙



敬老会での記念品配布の様子



ドライブスルーの様子

一日でも早い 当たり前の日常を

勝占東部コミュニティ協議会

「あつ、しまった。」

ちよつと買い物にコンビニに入ろうとした入口でマスクを忘れたことに気付き退散、その時から常に外出にはマスクを携行しています。こんな日々が続いています。

緊急事態宣言が発出されて

から、外出の抑制や休業、お店などの営業時間の短縮が余儀なくされてきました。コミュニティセンターにおいても令和二年度に続き休館する期間があり、これまでにない状態に陥りました。



敬老会の様子 (令和元年)

当然、地域の皆さんが集まっただけの総会や行事も中止せざるを得ず、貸館もできない期間もあり、地域の方々が親睦や健康保持など色々な活動に利用していただき、本来のコミュニティセンターの役割が果たせないことになっていました。コミュニティセンターで行う「敬老

会」も二年間中止となりました。様々な行事もできず休館中のコミュニティセンターに多数の方々の出入りのない日常は寂しいものです。早く日常生活が普通に行えるようになり、コミュニティセンターが行う事業も再開をしたいと思います。また、徐々に自主的に活動を控えていたコミュニティセンターの利用団体、サークルの方々にも利用していただき、元気な笑顔を見たいと思っています。思い出します。敬老会に参加していただいた高齢者の皆さんが楽しそうに歌を歌っていた笑顔を。令和四年は様々な行事の開催ができることを祈っています。



大神子線道路でのみちピカ活動 (令和元年)



親子ふれあい餅つき大会 (令和元年)

編集後記

明けましておめでとうございます。最近の感染症は次第に落ち着いてはきていますが、まだまだ予断を許さない現状です。コミュニティだより九十一号をお届けします。内藤市長からは「わくわく実感！水都とくしま」の紹介。島田会長からコミュニティの一層の充実をお願いし感染対策にがんばりましょう。佐古地区からは地域のボランティア活動の現状報告、不動産地区からは地域の交通網の要所である橋の紹介、多家乡地区からは史跡めぐりのお話、上八万地区からは県道の拡幅工事による地域の活性化の報告、住吉・城東地区からは大岡川のさくらロードの報告、昭和地区からはコロナ禍での敬老会のできるものできないものの報告、勝占東部からは早く当たり前の日常を取り戻したいとの希望など各地区工夫して報告してくれています。令和四年が皆さまにとって良き年となりますよう心からお祈りいたします。
(大川良文 記)